1 派遣期日 令和5年 6月 29日(木) ～ 6月 29日(木)

2 派遣先 学校名(会場名) 茨城大学教育学部附属中学校
所在地 茨城県水戸市文京1-3-32
<http://www.jsch.ibaraki.ac.jp/>

3 研修内容 【以下(1)～(4)は研究大会要項より一部抜粋】

(1) 研究テーマ

『学びの価値を実感する生徒の育成』

(2) 技術・家庭科が考える学びの価値

『生活や社会の課題を解決するとうれしい』

(3) 学びの価値の設定理由

①教科の特性から

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説技術・家庭編において、現代における学校教育には、「様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構築するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになること」が求められており、技術・家庭科では、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて生活を工夫し創造する生徒の育成を目指すことが示されている。

茨城大学教育学部附属中学校では、以上のことを踏まえて、技術・家庭科が考える学びの価値を「生活や社会の課題を解決するとうれしい」とした。生活や社会の中で困難な課題に遭遇したとき、既習事項を生かして解決方法を考え、実践することで「課題を解決できてうれしい」という達成感や成就感を得ることができると考えた。また、実践活動の評価・改善を検討することで、次の学びに向けてさらに主体的に取り組む態度を育むことをねらいとしている。

②生徒の実態から

技術・家庭科で目指す学びの価値の実現に向けて、生徒の意識調査を実施したところ、課題設定の力(1)は82%の生徒が肯定的な回答であった。また、学びを生活に生かす経験(2)については、95%の生徒が肯定的な回答であった。そこで、「学びを生活に生かしたときの気持ち」について質問したところ、「うれしい」61%、「楽しい」58%、「すごい」41%と肯定的な感情を抱く生徒が多いことが明らかとなった。しかしその一方で、「無感情」10%の回答も見られた。また、生活の中で生かしていない理由について質問したところ、「時間がない」23名、「何をしたらいいかわからない」19名、「やる気がない」11名、「ほかの人がやってくれる」9名、「うまくできない」7名と様々であった。以上のことから、生活を工夫し創造しようとする実践的な意欲を高める教科の特性を生かし、生徒が習得した知識及び技能を生活の場で生かすことができるように、課題設定から解決までの一連の学習活動を工夫していく必要があると考える。特に、問題を見だし課題を設定する段階において、それぞれの生徒の実態や考え方を踏まえた学習とすることで、「課題を解決できてうれしい」と感じる生徒がより増加していくように、手立てを講じる必要があると考える。

(4) 公開授業

① 題材名

「持続可能な社会をめざして環境に優しい消費者になろう」

② 題材の学びの価値

『消費者として課題を解決すると、地球も自分もうれしい』

③ 題材の学びの価値を実感させるための手立て

ア 題材の工夫

生徒にとって身近な問題となるように、家庭分野に係る見方・考え方の視点範囲をこれまで学習した「衣食住」とする。グローバル市民科（総合的な学習の時間）では、2年間「環境に関すること」を学習している。教科等横断的な学習の充実を図ることで、地域や社会・家庭で生活しているということをより実感できるように工夫していく。

イ 実践的な態度を育てるための工夫

実践的な態度を育むためには、問題解決的な学習の一連の学習過程が重要である。「解決方法の検討と計画」の段階では、見通しをもって計画を立てる場面を設定し、環境に配慮した生活の課題について多面的・多角的に捉え、解決方法を友達と協働しながら検討できるようにする。そして、「課題解決に向けた活動実践」の段階では、家庭での取組の調査や保護者からのアドバイスを得る活動を通して、家庭とのつながりを意識して実践できるようにする。最後に、「実践活動の評価・改善」では、課題の解決に向けて実践・調査したことを振り返り、考察したことを発表し、友達からの意見を参考にして改善策を検討することで、次の学習への意欲付けとする。このような一連の学習過程を行うことで、生徒が課題を解決できた達成感や、実践する喜びを感じて満足感を得られるように工夫する。

ウ 教材・教具の工夫

(ア) ICTの活用

環境に配慮した生活の問題を見極め、課題の解決方法を考える場面や実践・調査した内容を振り返ってまとめ、発表する場面で ICT を活用することで、個に応じた課題設定や解決方法の検討などを効果的に行うことができる。

(イ) ワークシートや学習形態の工夫

課題の設定、計画、実践、評価改善という一連の流れがわかり、題材を見通せるワークシートとすることで、生徒が学習の見通しをもち、計画を立てやすくなったり、学習した内容を振り返ったりしやすくなるように工夫する。また、ワークシートを家庭へ持ち帰ることで、学校での学習の様子が家庭にも伝わり、実践意欲へとつながるようにする。

また、学習形態の工夫としてジグソー法を活用する。よりよい解決方法を考えるために、メンバーが得た情報を相互に働かせて、協働的に話し合う機会となるように工夫していく。

4 感想

今回の研修では、生徒が既習事項を生かして解決方法を考え、実践することで達成感や成就感を得ることができ、次の学びに向けてさらに主体的に取り組む態度を育むことができる学習方法について研修することができた。

自分の生活の中から課題を設定し、その課題の解決方法を考えていく学習活動では、ジグソー法が取り入れられ、環境に配慮した生活の課題について多面的・多角的に捉えたり、解決方法を友達と協働しながら検討したりできるように工夫されていた。また、課題の設定から計画、実践、評価、改善という、今回の学習の一連の流れが分かるワークシートの工夫や、ロイロノートを活用した情報を整理したり共有したりできる工夫があることで、生徒たちは学習の見通しをもちながら、主体的に学習活動に参加していた。

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する生徒の育成を目指し、今回の研修で得た知見を今後の授業実践に生かしていきたい。